

鉄骨造金属外装下地専用耐火高断熱パネル

# ネオマ耐火スパンウォール<sup>®</sup>

木毛セメント板複合高性能フェノールフォーム

NEW

認定番号が新しくなり、  
使用可能な金属外装材の範囲が拡大しました。

壁30分耐火構造  
FP030NE-0183-3

壁60分耐火構造  
FP060NE-0184-3



使用可能な金属外装材の範囲が拡大し、より使い易くなりました。

壁30分・60分耐火構造

壁30分耐火構造 FP030NE-0183-3

壁60分耐火構造 FP060NE-0184-3

形状の追加と共に、空間断面積の規定から、金属板断面積の規定に変更になり、適用可能な金属外装材の範囲が拡大しました。

NEW

# ネオマ 耐火スパンウォール®

NSW : Neoma taika Span Wall

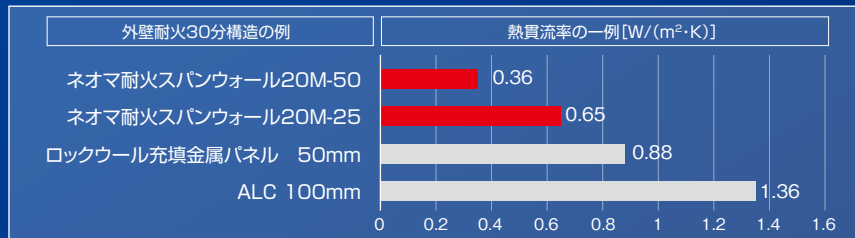
- 耐火性** 壁30分・60分耐火構造認定を取得しています。
- 高断熱性** ネオマフォームの高断熱性により、高い断熱性を発揮します。
- 外張り断熱** 外張り断熱で躯体を保護。面倒な熱橋計算も不要です。
- 軽量性** 重量は16.7kg/m<sup>2</sup>(20M-20)。躯体への負担を少なくします。
- 現し仕上げ** 内装なしの設定のため、現し仕上げも可能です。
- デザイン性** 様々な種類のスパンドレル鋼板、角波鉄板が使用可能です。



施工状況



内装仕上がり状況



## 製品規格

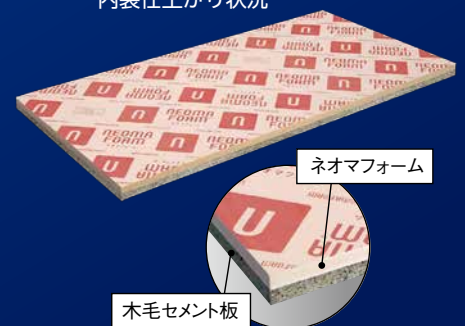
構成	
断熱材	複合材料
ネオマフォーム JIS A 9521フェノールフォーム断熱材1種2号CII JIS A 9511A種フェノールフォーム保温板1種2号C	木毛セメント板

耐火性能	品番	厚さ (mm)		幅×長さ (mm)	重量*1 (kg/m <sup>2</sup> )	E1認証対象	熱抵抗*2 [(m <sup>2</sup> ・K)/W]
		ネオマフォーム	総厚				
30分耐火構造	20M-20	20	40	910 × 1820	16.7	●	1.0
	20M-25	25	45		16.9	●	1.3
	20M-30	30	50		17.0	●	1.5
	20M-35	35	55		17.1	●	1.8
	20M-50	50	70		17.5	●	2.5
60分耐火構造	25M-20	20	45	910 × 1820	25.7	●	1.0
	25M-25	25	50		25.9	●	1.3
	25M-30	30	55		26.0	●	1.5
	25M-35	35	60		26.1	●	1.8
	25M-50	50	75		26.5	●	2.5

## 壁の断熱性能計算例

(木毛セメント板の熱抵抗を加味した計算)

耐火性能	品番	熱貫流率*3 [W/(m <sup>2</sup> ・K)]
30分耐火構造	20M-20	0.77
	20M-25	0.65
	20M-30	0.56
	20M-35	0.49
	20M-50	0.36
60分耐火構造	25M-20	0.75
	25M-25	0.63
	25M-30	0.54
	25M-35	0.48
	25M-50	0.35



ネオマフォーム

木毛セメント板



## 優良断熱材 (E1) 認証制度について

「優良断熱材認証制度」は一般社団法人 日本建材・住宅設備産業協会が優れた品質管理のもとに安定した断熱性能を有する優良断熱材 (E1) を認証する制度です。  
省エネルギー適合義務化の断熱性能の確保において、JISと並ぶ第三者認証制度として利用できます。

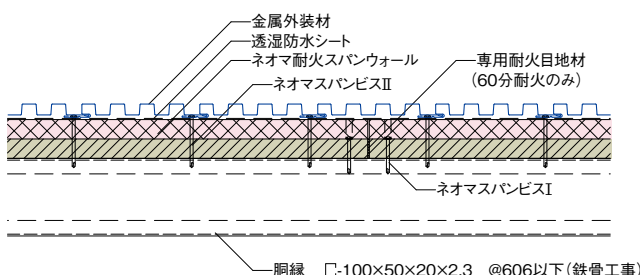
※1 重量は標準的な重量を示しています。 ※2 ネオマフォーム単体 (複合材料の断熱性能を含まない) の断熱性としています。

※3 壁体はネオマフォーム及び木毛セメント板のみで構成され、かつ以下の数値を用いて算定しています。

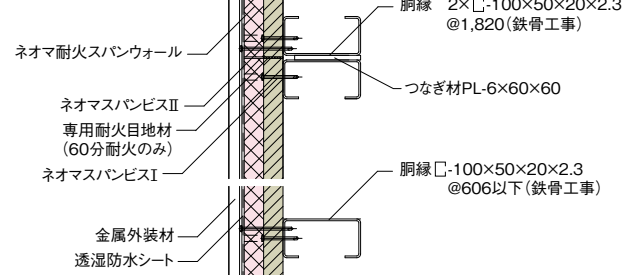
木毛セメント板熱伝導率:0.13[W/(m・K)]、木毛セメント板の熱抵抗 [(m<sup>2</sup>・K)/W]:30分耐火構造の場合0.15、60分耐火構造の場合0.19、室内側熱伝達抵抗:0.11 [(m<sup>2</sup>・K)/W]、室外側熱伝達抵抗:0.04 [(m<sup>2</sup>・K)/W]

## 基本ディテール

### 一般部 水平断面詳細図

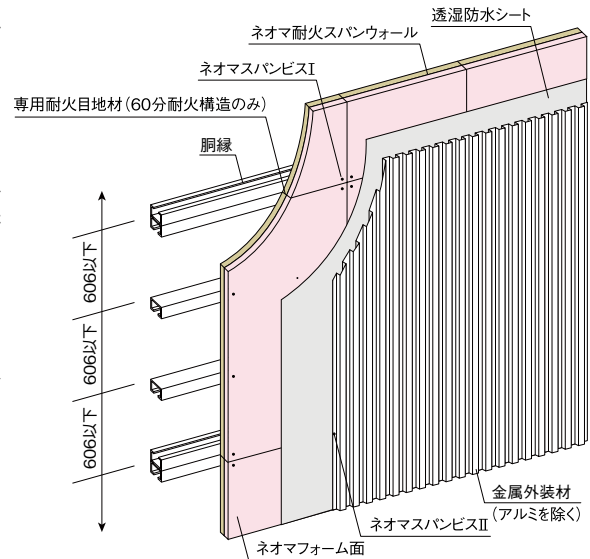


### 一般部 垂直断面詳細図





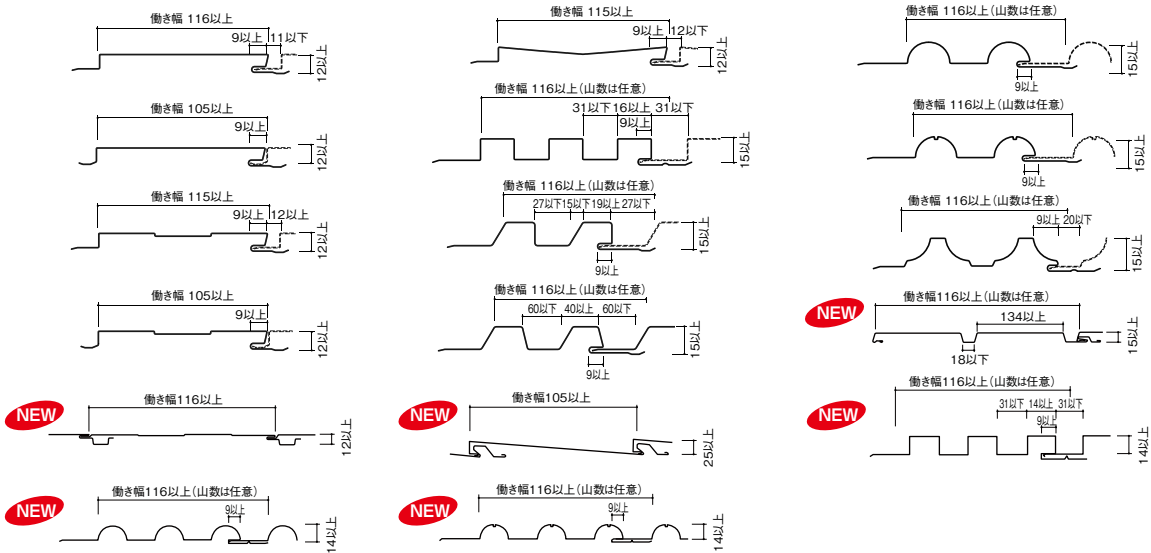
- ネオマ耐火スパンウォールは、ネオマスパンビスI(指定ビス)にてネオマフォーム面を屋外側(木毛セメント板を室内側)になるよう胴縁に取付けてください。
- ビスは、幅方向@455以下、長さ方向胴縁ピッチ以下で取付けてください。  
※ビスは、ネオマフォーム部分を貫通させ、木毛セメント板表面まで達するようにしてください。なお、ビス穴の補修は不要です。
- アルミ外装材は認定対象外となります。認定対象内となる外装材は、耐火認定での外装材仕様を基本とし、認定内容の詳細については、耐火構造認定書にてご確認ください。(弊社HPよりダウンロードできます)
- スパンドレル型鋼板の取付けは、ネオマスパンビスII(指定ビス)をご使用ください。
- 胴縁は□-100×50×20×2.3以上とし、606mmピッチ以下とします。
- 胴縁の耐火被覆は不要です。(口準耐1に使用する場合を除く。)
- 木毛セメント板は60分耐火構造用で25mm厚、30分耐火構造用で20mm厚となります。
- 60分耐火構造の目地部は、木毛セメント板の小口部にカットシートG(専用耐火目地材)を取付けます。(30分耐火構造の目地部は不要です。)
- ネオマ耐火スパンウォール突付部の横胴縁のだき合せ部に用いるつなぎ材は、PL-6×60×60mmの断面寸法以上としてください。



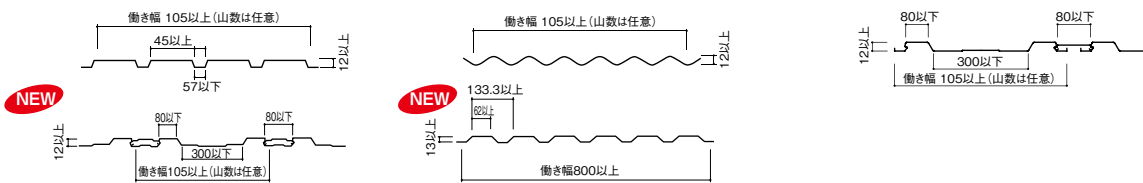
基本事項

- 厚さ 0.40mm以上
- 長さ 12000mm以下
- 材質
  - ①塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板(国土交通省大臣認定番号:NM-8697)
  - ②塗装溶融亜鉛めっき鋼板(国土交通省大臣認定番号:NM-8697)等
- 動き幅 105mm以上
- 山高さ 12mm以上
- 形状

〈スパンドレル〉 (金属板断面積 5.3cm<sup>2</sup>/m以上)



〈角波鉄板〉 (金属板断面積 4.3cm<sup>2</sup>/m以上)



金属板断面積 (cm<sup>2</sup>/m): 金属板の断面積を、外壁幅1mあたりに換算した値。  
※金属板断面積については各金属外装メーカー様にお問合せください。

■耐火構造認定に適合する金属外装材の選定

以下の3つの条件を全て満足する金属外装材を選定する必要があります。

- ① 上図に記載の形状(スパンドレル17形状、角波鉄板5形状)であること。
- ② 各形状図に記載の寸法規定を満たしていること。
- ③ 金属板の断面積が、スパンドレル:5.3cm<sup>2</sup>/m以上、角波鉄板:4.3cm<sup>2</sup>/m以上であること。

## ■ 注意事項・補足

- 耐火認定 (FP030NE-0183-3/FP060NE-0184-3) をご使用の場合、認定書をご確認いただき記載内容を遵守してください。  
また、使用材料は必ず弊社「ネオマ耐火スパンウォール」をご使用ください。
- 60分耐火の場合、耐火目地材の取付けはタッカー等を用いて@300程度で固定してください。
- 耐火目地材は、木毛セメント板部分に取り付けてください。
- ネオマ耐火スパンウォールは、複合(合成)耐火は取得しておりませんので、柱、梁等の耐火被覆が必要となります。
- パネル及び施工精度により、板間にわずかな隙間が生じるがありますが、耐火性能上、特に問題はありません。
- クレーンでの場重時は、パネルにヘコミなどが生じないように、パネルに同梱されている角あて部にスリングをかけてください。
- 設計、施工にあたっては「ネオマ耐火スパンウォール施工マニュアル」をご一読ください。
- 金属外装材の設計・施工方法等については、各金属外装メーカーにお問い合わせください。  
※外装材として求められる風圧力や地震力等の外力については外装材で、防水性能については透湿防水シート等で確保してください。



柱四周耐火被覆処理例



## 注意 ネオマ耐火スパンウォール取扱い注意事項

### ① 使用環境に関する注意

- 常時、水分に接するような使用(基礎の外側・土中・水蒸気が多量に発生する環境等)は避けてください。
- 常時高温(100℃以上)で使用した場合は、熱伝導率等の物性の低下をきたします。

### ② 保管・運搬時・施工時・作業時の注意

- 保管には直射日光のあたる場所・水分の接する場所は避けてください。
- 保管は養生シート等で覆い、ロープ掛け等の飛散防止処置を行ってください。
- 鋭角な器物との衝突や角当ては、損傷の原因になりますので避けてください。
- 強風下での施工は風にあおられやすいので行わないでください。
- 保管・運搬時・施工時・作業時には雨水等に対し、適切な養生を行ってください。

### ③ 粉塵注意

- 切断時には粉塵が発生しますので、切断器具には集塵装置を設けてください。また、作業者は正規の作業服を着用の上、防塵マスク・防護メガネ等の使用をお願いします。
- 狭い場所で多量の切断作業を行う場合は、十分な外気の導入を行い粉塵量を低下させてください。
- ネオマフォームの粉塵には健康上の有害性は認められていませんが、目に入った場合はこすらないで流水で洗浄してください。また、吸引した場合はうがい等を行い粉塵を洗い出してください。

### ④ 火気注意

- ネオマフォームの基材は炎をあてると炭化する性質があります。輸送・保管・施工にあたっては、火気にご注意ください。特に、ネオマフォームの切断等で生じた粉塵には火が移りやすくなりますのでご注意ください。(基材の酸素指数:28以上)
- 燃やした際にアンモニア臭が発生しますが、人体に有害なレベルの量ではありません。

### ⑤ 変色注意

- 各製品は紫外線により変色の恐れがありますので、室内側の使用であっても、フォーム部分および不織布面が露出する使用は避けてください。保管中や施工中も含め、養生する等配慮してください。なお、変色による著しい性能低下は認められていません。

### ⑥ 廃棄時の注意

- 廃棄する際は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき、適正に処理してください。
- 処理にあたり、ネオマフォームを圧縮・粉砕することは避けてください。

### ⑦ その他

- ネオマフォームは白アリ等の昆虫および動物によって損傷を受けることがあります。栄養源や餌にはなりません。
- FP060NE-0184-3(60分耐火)については高比重の木毛セメント板を使用しています。

上記注意事項は、通常取扱いを対象にしたものです。特殊な取扱いをされる場合は用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご使用ください。  
また、記載内容は現時点の資料・データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。

## 〈免責事項〉

- ① 本カタログに記載した取扱い注意事項が行われず発生した不具合
- ② 設計者・施工業者等使用者の指示した仕様・施工方法に起因する不具合
- ③ 設計者・施工業者等使用者から支給された材料・部品に起因する不具合
- ④ 施工業者による施工・取扱いに起因する不具合
- ⑤ 建物の構造・下地の変形・老朽化や外部からの衝突等、弊社の製品以外の外的要因により発生した不具合
- ⑥ 使用者もしくは第三者の故意または過失による不具合
- ⑦ 引き渡し後、構造・性能・仕様等の改変を行い、これに起因する不具合
- ⑧ 瑕疵を発見後すみやかに届けがされなかった場合
- ⑨ 開発・製造・販売時に通常予想される環境等の条件下以外における使用・保管・輸送等に起因する不具合
- ⑩ 地震・台風等の天災・火災等の特殊要因が原因により発生した不具合

## 【ネオマ耐火スパンウォールの海外でのご使用に関して】

ネオマ耐火スパンウォールは、日本国内での使用を前提として設計・販売しています。

ネオマ耐火スパンウォールを日本国外で使用する場合、製品仕様及使用国の法令、規格に適合しない可能性があります。

- ネオマフォームの詳細につきましては「ネオマフォーム建築・産資 総合カタログ」を御覧ください。
- ⚠: このマークは設計上および安全上注意していただきたい箇所に表示してあります。
- ⚠: 警告: 取扱いを誤った場合に人が死亡または重傷を負う危険が生じることが想定される場合に表示してあります。
- ⚠: 注意: 取扱いを誤った場合に人が傷害を負うか、または物的損害が発生する危険な状態が生じることが想定される場合に表示してあります。
- 本カタログに掲載の商品は、設計・施工に関する専門の知識・技術が必要であり、所定の教育を受けた技術者・技能者による設計・施工を原則としております。ご採用(使用)にあたっては、これら専門業者の方にご依頼願います。
- ご使用にあたっては、関連法規および弊社が提供する技術資料に従って適切に設計・施工してください。
- 仕様・外観等は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 印刷物と実物とは多少外観が異なることがありますので、ご了承ください。
- このカタログの内容についてのお問い合わせは、弊社または代理店にお尋ねください。

## 旭化成建材株式会社 <http://www.asahikasei-kenzai.com/>

● お問い合わせは

本社 〒101-8101 東京都千代田区神田神保町1-105(神保町三井ビルディング) TEL.03-3296-3531 FAX.03-3296-3535  
札幌 〒060-0002 札幌市中央区北二条西1丁目1(マルイト札幌ビル) TEL.011-261-5443 FAX.011-261-0975  
仙台 〒980-0811 仙台市青葉区一番町3-1-1(仙台ファーストタワー) TEL.022-223-8171 FAX.022-211-9526  
名古屋 〒460-0003 名古屋市中区錦1-11-11(名古屋インターシティ) TEL.052-212-2251 FAX.052-212-2257  
大阪 〒530-8205 大阪市北区中之島3-3-23(中之島ダイビル) TEL.06-7636-3838 FAX.06-7636-3828  
福岡 〒810-0012 福岡市中央区白金1-20-3(紙与薬院ビル) TEL.092-526-2107 FAX.092-526-2492